

板鼻十一屋

板鼻十一屋は、江戸時代中期に近江商人の六左衛門(のちの野田六左衛門)が板鼻宿に開業した商店で、正式な店名は「野田六商店」といいます。当初は清酒の生産・販売を行っており、その後、味噌・醤油の販売も始めました。明治期の売り上げの3分の2は清酒で、その生産量は碓氷郡最大を誇り、銘酒「群鶴」が有名でした。

滋賀県出身の野田六左衛門は年に数回板鼻を訪れるのみで、居住はしていませんでした。また従業員の多くが同郷で、退職すると帰郷しました。労働力の確保と維持を同郷の出身者でまとめるこの方針は近江商人の伝統的な企業経営でした。

平成2年(1990)になると板鼻十一屋は生産を中止し、その6年後に閉



板鼻十一屋改築記念大売り出し
昭和時代初期撮影

店しました。残っていた母屋や酒蔵、レンガ造りの煙突は取り壊され、現在は板鼻公園として整備され地元の憩いの場になっています。



令和元年度
「文化財愛護ポスター」
優秀賞(敬称略)
廣上翔大
(安中第二中学校1年)

春季企画展「あの日の頃のこの町で」写真で振り返る安中市」の開催は延期になりました。続報をお待ちください。

学習の森 ふるさと学習館
オリジナルグッズ販売中

企画展図録
関口コオ いつかきた路
1200円 (112頁・A4判)



関口コオ企画展記念
オリジナルマスキングテープ
各500円

① 童の四季



② ポチ



その他、図録・グッズ多数販売しています。
郵送での購入も可能です。(別途送料がかかります)
お電話・Eメールでお問い合わせください。

問合せ ▶ 安中市学習の森 ふるさと学習館
安中市上間仁田951 ☎382-7622 mail: furusato@city.annaka.lg.jp